



「ちょっといいね！」がたくさんあるまち 訓子府町



訓子府町基礎データ

| | | | |
|------------|----------------------------|-----------|-------------------------|
| 総人口 | 4,419人 (R7年9月末現在) | 製造品出荷額 | 5,991百万円 (R3経済センサス) |
| 老齢人口（高齢化率） | 1,794人 40.6% (R7年9月末現在) | 卸・小売年間販売額 | 12,838百万円 (R3経済センサス) |
| 世帯数 | 2,102世帯 (R7年9月末現在) | 一般会計規模 | 5,378,700千円 (R7当初予算) |
| 人口密度 | 23.1人/km ² | 町の木 | オンコ |
| 面積 | 190.95km ² | 町の花 | エゾムラサキツツジ |
| 農業産出額 | 14,960百万円 (R5市町村別農業産出額) | | |

訓子府町の紹介（農業のまち）



レクリエーション公園展望台からみた訓子府町市街地

訓子府（くんねっぷ）という町名は、道内の方でも読めない方がおられるのではと思いますが、アイヌ語で「クンネブ」から転訛したもので「黒いところ、やち川にして水黒し」の意味から由来しています。

オホーツク管内のやや西南に位置し、隣の北見市までバスで約30分の距離にあります。

オホーツク海へ注ぐ常呂川が町の中央を流れ、周囲が山に囲まれた盆地になっており、寒暖差が大きい盆地特有の内陸性気候です。

年間降水量は比較的少なく、日照率が高い地域です。

オホーツク管内で最も面積が小さな自治体で、半分は森林で覆われ、町内の面積の4割近くが農地として利用される純農村地帯です。

また、農家一戸当たりの経営面積においても約23ヘクタールと、こちらも管内最小です。

過去から農業基盤整備事業を切れ目なく実施してきており、農地への投資のおかげもあって、各作物の生産性や品質ともに優れたレベルにあり、高い評価をいただいている。

当地で作れない作物はないことから、「北海道農業の縮図」と言われることもある地域です。



特産のたまねぎ収穫風景

中でも特産は北見たまねぎとして全国的に流通している「たまねぎ」であり、生産量は

隣の北見市に次いで全国第2位となっています。

他には地域の基幹作物であるビート・小麦・じゃがいもを軸に、野菜・水稻などが作付けされており、酪農も盛んで農業産出額の4分の1を占めています。

地域の特産としては「くんねっぷメロン」があり、水田転作やたまねぎの相場が不安定であった頃に補完作物として導入され、ピーク時の平成9年には約2億円の売り上げがありました。

しかし、その後は経営規模の拡大やたまねぎの高値安定に伴い、メロンの作付面積は減少の一途をたどっています。地元をはじめオホーツク管内では知名度が高く、毎年消費者が心待ちにしていることから、何とか生産を維持すべく支援策を講じている状況です。

認定こども園「わくわく園」



訓子府町認定こども園 わくわく園「はだしの庭」

農業のまちの側面のほかに、子育て環境の充実にも力を入れており、その最たるもののが平成28年4月に幼稚園と保育所を統合して開園した認定こども園「わくわく園」です。

訓子府町では、町立の常設保育所をはじめ、季節保育所やへき地保育所が多い時で7ヶ所設置されていましたが、園児数の減少に伴い徐々に閉所・統合となり、平成22年には昭和56年建設のくんねっぷ保育園1ヶ所になりま

した。

一方、昭和53年に初めての幼稚園が町立て設置され、5歳児は幼稚園（平成13年から入園年齢を4歳児に引き下げ）、4歳児までは保育所という全国で初めての公立幼保一元化をスタートさせています。

両施設が建設から30年以上を経過し、施設の老朽化や狭隘化、0歳児から就学前までの一貫した幼児教育・保育を目的に、幼保一体施設の建設の機運が高まり、「わくわく園」の整備に至っており、令和7年で開園10年目を迎えます。



わくわく園グラウンドで遊ぶ園児たち

柱や梁には町有林のカラマツ材を加工した集成材を、床材には姉妹町の高知県津野町産のヒノキ材を使用、木製遊具の設置、外壁材には訓子府の土を混ぜた乾式レンガタイル、地中熱を利用したヒートポンプや太陽光発電システム、周囲から目が行き届き誰もが安心して遊べる芝生の中庭『はだしの庭』、中庭を取り囲む行き止まりのない回遊性と一体感のあるコンパクトな園舎、年齢ごとに独立性を持った保育室、秘密基地のような『絵本のいえ』、こども園からグラウンドへ直接入り可能な玄関や足を洗うシャワー、食育のための移動キッチンなど、木のぬくもりがあふれ環境に配慮したやさしい園舎となっています。

「わくわく園」開設にあたってのコンセプトを『未来にきらめく子どもたちに生きる力

を』とし、地域性を活かした活動、異年齢活動の充実、食育活動の充実、地域との触れ合い活動の充実、子育て支援センターとの連携強化、職員の資質向上を掲げ、全ての人が楽しく過ごせる園を目指しました。

保護者の就労形態などに配慮した保育時間の設定と、入園していない園児の保護者の短期間の就労・傷病や里帰り出産などで一時的に訓子府町に帰省して園児を預ける場合に対応する「子育て応援保育」や「一時預かり」により、多様化する保育ニーズに応えていきます。

保育料については、3歳から5歳児の利用料を無料にする国の制度に加え、開園当初から町が独自で低所得世帯や子どもが2人以上いる世帯に対して保育料や給食材料費の減免を行っており、令和6年4月からは新たに3歳未満の保育料と3歳以上の給食材料費を完全無償化し、保護者の経済的な負担軽減を図っています。

新たなまちづくりの動き



第1回 くんねっぷ牧場ミニマラソン

訓子府にも「町の様々な課題」がありますが、地域の伸びしろを発掘・価値化し、行政と民間の良い所と隙間を埋めるような「まちづくり会社」を令和7年度末を目指して設立するため、現在準備中です。

地域活性化起業人や地域おこし協力隊、民

間企業との連携により、「農業」「観光」「教育」の3本柱による事業展開を目指しています。

その前段の活動として、令和6年には本町共同利用模範牧場を利用した「第1回くんねっぷ牧場ミニマラソン」が開催され、令和7年には地元食材をPRする目的で、キッチンカーを活用し首都圏近郊で定期的にマルシェに出店するなど、行政とは異なる視点で魅力的な活動を展開しております。

今後、町民全体でまちを盛り上げていく機運となるよう期待が寄せられています。

地元で愛される「たれカツ丼」



訓子府名物 たれカツ丼

地元で愛されるグルメといえば、「たれカツ丼」があります。

当地域独自のもので、いわゆる「玉子とじ」ではなく、揚げたてのカツをご飯にのせ、秘伝のたれ（醤油ベースの深い味わいと絶妙な甘さ）で味わうシンプルなものです。

町内の飲食店のほとんどで、この「たれカツ丼」を提供しているほか、町のお祭りなどのイベントでも販売があります。

来町の際は、ぜひ一度召し上がってみてください。

訓子府町の四季



【春】春耕と大雪の山々



【夏】麦稈ロール



【秋】集荷を待つたまねぎ



【冬】厳寒の常呂川